

VISTA 5 ユーザーレポート

株式会社 WOWOW 様

VISTA 5

音声の中継車に VISTA 5 を採用



■ WOWOW 音声の中継車

株式会社 WOWOW
技術局 制作技術部
中村 寛

コンセプト

WOWOW ではこの度音声の中継車を導入し、2009年4月より運用を開始しました。下記のコンセプトを掲げ、WOWOWの音をつくるに相応しい中継車の実現を目指しました。

1. システムの基幹部分については冗長構成とし、長時間の生中継にも耐えうる十分な安全性を担保する。
2. ミキシングルームを2部屋設け (Room-A、Room-B)、サラウンドスピーカーも常設とし、各々独立して別プログラムを5.1chで制作出来る

ようにする。

3. 音楽ライブや舞台中継が多くを占める番組制作に特化した、WOWOWにとって一番使いやすいシステムとする。

また、2つのミキシングルームは“メインとサブ”という位置付けではなく、部屋の大きさこそ違えども、両部屋とも同列の部屋として設計し、呼び方も“Room-A”“Room-B”としました。理由は以下のとおりです。

1. Room-AとRoom-Bが相互にバックアップとして機能すること。そのためには音声卓やSP設置状況等がなるべく同等であることが望ましい。
2. 生中継の際はRoom-Aのミックス音声をRoom-Bで受け、更にMCやVTRなどをミックスして放

送音声として仕上げ、最終段として送り出す、という使い方となるので、Room-Bは安全性ではRoom-A以上のものが必要である。

VISTA 5 を採用

WOWOWでは特に音楽ライブと舞台中継が多いので、このことを考慮しコンソールの選定を行ないました。既述のとおり、Room-AとRoom-Bのコンソールは出来れば同じものが良いということから、Room-Bに入る大きさを信号処理規模の大きなRoom-Aにも対応できること、しかも2台入れても予算内に収まるという条件に合致するものとして、VISTA 5を採用しました。Room-Aは42フェーダー、Room-Bは32フェーダーのモデルです。VISTA 5は奥行きが約75cmとコンパクト



■ Room-A



■ Room-B



■ステージボックス



■ 2台分のSTUDERラック



■ Room-A Lsスピーカー付近

トなため2部屋とも圧迫感がなく設置できました。また、メーターブリッジが無く高さが低いため、モニタースピーカーや映像モニターを適正な高さに設置できました。メーターはフェーダー横のLED表示ですが慣れればストレスはありません。2部屋を同じコンソールとすることで、いざトラブルでバックアップをとる場合等、ただでさえ焦ってしまう状況下での操作にメリットがあると思います。

ステージボックス

ステージボックスは4台あり、合わせてAnalog in : 160ch、Analog out : 32ch、AES in/out : 16chという構成です。ケーブル、電源ユニットは2重化とし、光複合カメラケーブルを使用して接続します。特徴として、ステージボックス本体でも

ヘッドホンによる検聴を出来るようにしました。回線チェックの際、出先PA側でOKだが収録側でNGのような場合に、原因の切り分けに効果を発揮します。4台とも基本的にはRoom-Aに接続されますが、ReLink機能を活用して、Room-Bでも素材をとることが出来ます。また4台とも車に積載できるようにして、そのうちの2台はラックルームに実装し、出先に持ち出さない場合は、車側のI/Oとして活用できるシステムとしました。電源は220Vをケーブルのメタル線を使い、車側から給電するのと、出先で100Vでも受電も出来るようにしました。

おわりに

稼動開始から半年余り経過し、多くの中継現

場でWOWOWの音をつくってきました。その中には、96トラックの5.1chマルチ収録、Room-A、Room-Bをフル活用した夏の野外フェス、炎天下での野外ライブ生中継など、音声中継車の実力を試される厳しい現場もありましたが、すべてを無事故で終えることができました。VISTA 5は操作性が良く、音質もバランス等を判断しやすく、特に時間のタイトな中継現場においては、作業のしやすい良い音に仕上がっていると感じています。

今回の音声中継車は、我々としては初めての念願の車ということで、それだけの想いを持って設計にあたりました。メーカーの皆様も「プロの技」でそれに応えていただき、我々とメーカー双方の「いいものをつくる」という想いが結実した車が出来上がったと思います。